

# 語れる夢 描ける未来

～タブレット端末を活用した誰一人取り残さない人づくりの実践～

地域の  
特色ある  
活動

## 三重県松阪市教育委員会

### 1 はじめに

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に接し、豊かな自然と歴史的な文化が色濃く残り、松阪牛や松阪茶などが、全国的に知られているところ



です。市内には、小学校 36 校、中学校 11 校があり、11,831 人の児童生徒が学んでいます。

### 2 本市の教育について

教育を取り巻く社会情勢は大きく変化し、子供たちを取り巻く課題も多岐にわたる中で、教育・人づくりは最も重要な教育施策であると考えています。

本市においては、基本理念として、「夢を育み 未来を切り拓く 松阪の人づくり」を掲げ、誰一人取り残さない、持続可能で包摂性のある教育を進めています。

### 3 GIGA スクールの取組について

#### (1) 1人1台端末環境の知見を生かして

本市は、2011 年度総務省「フューチャー・スクール推進事業」並びに文部科学省「学びのイノベーション事業」を受け、モデル校の三雲中学校において、1人1台のタブレットを用いて、協働学習における効果的な活用について研究を進めてきました。

例えば、協働的な学びを行うためにどの場面ではタブレットを活用し、どの場面では活用しないかなどを各教科において検討してきました。

こうした取組は 2020 年度から始まった GIGA スクール構想において、その成果や課題を生かすことができました。

#### (2) 周囲を巻き込む情報発信

GIGA スクール 1 年目となる 2021 年度は、教員だけでなく、保護者、地域住民を対象に中学校区単位で説明会や模擬授業体験を実施しました。実際に端末に触れていただき、これからの学習が変わることを実感してもらうとともに、さまざまな不安や疑問に一つ一つ丁寧に答えてきました。

さらに、より多くの方々へ新たな学びを知っていただきたいと考え、市ホームページで PTA と協力した動画配信や授業の様子や子供たちの取組などの配信を行いました。



#### (3) まつさか GIGA フェスタ

2022 年度は、学校・家庭・地域向けイベントとして、プログラミング大会、タイピングコンテストの他、プログラミング体験、参

加型の授業体験からなる「まつさか GIGA フェスタ 2022」を開催しました。

本フェスタは、さまざまな大学や企業の協力を得て、保護者、教育関係者、子供、地域の方々など多くの方々に参加いただきました。大変好評であったことから、本年度も開催する予定です。



#### (4) 学びを止めないサポート体制

ICT 環境を支えるサポート体制は大変重要だと考えています。本市の ICT 環境は、さまざまな企業の方に関わっていただいていますので、トラブル時の問い合わせ先が複雑でした。1つの問題が起こると、その関係する企業の間においてたらい回しがあり、課題解決に多くの時間がかかることがありました。

そこで 2021 年秋に、サポートセンターを開設し、そこが責任をもって問題の切り分けを行うことにより、問題のたらい回しがなくなり、早期解決が図られることとなりました。

#### (5) 持ち帰り学習の充実

LTE モデルの採用により、本市の持ち帰り学習は平常時や長期休業中にかかわらず、すべての学校において定着しています。

これまで画一的であった宿題という概念を変え、子供たち一人ひとりが、自分に応じた課題に取り組めるよう進めています。

例えば、教員が一斉に同じ課題を配信する形から、児童生徒が自身の蓄積された学習ログを生かし、課題を選択する、いわゆる自己調整的な学習ができます。つまづいたところを解説動画で学びなおすこともできます。また、授業内で解決できなかった発展的な課題を家庭学習において継続することができます。

#### (6) 放課後の自主研修

GIGA スクールを機に、放課後に先生たちの自主的な研修が一層活発になったと聞きます。授業で端末を活用し、放課後に先生たち同士でふりかえり、交流するというものです。

こうした流れから教育委員会として新たに始めた取組が、放課後「GIGA\_LAB 研修会」です。この研修はオンラインで放課後に開催し、意欲を持った先生が自主的に参加する研修です。研修会は、そのタイミングでニーズの高い内容を随時計画しており、すぐに活用が期待できる内容を提供できるメリットがあります。

また、参加する先生方の交流の場ともなっており、好事例を横展開しやすいというメリットもあります。参加した先生方がインフルエンサーとなって実践を発信しています。

## 4 おわりに

GIGA スクールにより、データの利活用の可能性は大きく広がりました。教育には、学習系データ、校務系データの他、さまざまなデータの蓄積があります。これらを整理し、分析することで、未来を予測することに役立てられないかと考えています。例えば、不登校の未然防止、保護者との連携、教職員研修の充実など、さまざまな可能性が広がります。こうした分野を切り拓いていくためには、データ分析に関する企業や専門家を有する大学等との連携が重要となります。

今後も、「語れる夢 描ける未来」をすべての子供たちに保障できるよう、さまざまな関係機関と連携・協力しながら、よりよい教育活動を推進してまいります。



教育長  
中田 雅喜